

製品名: DAPK1 (リン酸化 Ser308) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04535**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	DAPK1
別名	DAPK1; DAPK; Death-associated protein kinase 1; DAP kinase 1
遺伝子 ID	1612.0
SwissProt ID	P53355
免疫原	抗血清は、Ser308 のリン酸化部位周辺のヒト DAPK1 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 274-323

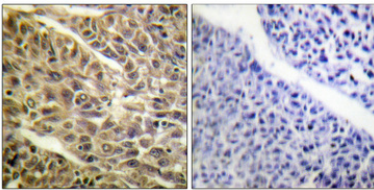
背景細胞死関連タンパク質キナーゼ 1 は、 γ -インターフェロン誘導性プログラム細胞死の正のメディエーターです。DAPK1 は、8つのア

ンキリンリピートと2つの推定Pループコンセンサス部位を有する、構造的に独特な160kDカルモジュリン依存性セリン-スレオニンキナーゼをコードしています。これは腫瘍抑制因子候補です。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq提供、2013年12月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。酵素制御: Ser-308の自己リン酸化によって負に制御される。機能: カルシウム/カルモジュリン依存性セリン/スレオニンキナーゼは、アポトーシスの正の調節因子として機能する。誘導: インターフェロン- γ による処理後にアップレギュレーションされる。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。DAPキナーゼサブファミリー。類似性: デスドメインを1つ含む。類似性: タンパク質キナーゼドメインを1つ含む。類似性: ANKリピートを10個含む。細胞内局在: アクチンフィラメント系と共局在する。,

研究分野

がんの経路;膀胱がん;

画像データ



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は1:100 (4°C、一晩)に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリスEDTA (pH8.0)を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。